

## 令和5年度まちかどミーティング会議録

開催日 令和5年10月13日（金）

地 区 勇払地区

会 場 勇払総合福祉会館

### <意見交換>

#### ◆市民 ……といます。

様式にはないんですけども、自治会さんのほうからまとまった要望書があるようなんですけども、先に手を挙げさせていただきました。

というのは、学校、小学校、中学校、勇払の、これについてなんですけれども、今、既に保護者を対象にアンケート調査に入っているという状態になっているようです。その内容は、今、この勇払地区の生徒数の減少、それと、聞くところによりますと、小学校の校舎が老朽化による建て替え見直し時期が近づいていると、こういうものを鑑みて、じゃあ、将来、この勇払の学校をどういうふうにしていくかということのようでございます。

そのアンケートの答えの中には、今の状態で小学校、中学校を存続させる。もう一つは、小学校を存続させて中学校を他の地域にスクールバスで送る。もう一つは、小学校、中学校もなくして、両方ともスクールバスを利用して近くの学校、沼ノ端になるんでしょうけれども、そんなような選択のアンケートでございました。

ということは、もしかしたら地域から小学校、中学校がなくなるかもしれないという可能性を十分秘めたようなアンケート調査のように思われます。私個人としては、いろいろな観点から、ぜひとも小学校、中学校一貫の建物一つの中での教育という形でもいいですから、是が非でもこの地域から学校をなくしたくないという思いでおります。

というのは、やっぱり学校というのは、その地域の本当の根幹に関わる施設、教育機関でありまして、それがなくなるということは、このまち自体の機能が本当に低下するというか、なくなるというか、地域のコミュニティーあたりにも、やはり学校の子供たちの親、この人方らが学校との行事の中で、あるいは学校に関わる地域行事の中で、どれほどこの地域の中の融和とか、そういうものを形成しているかというようなことも考えると、一つの方法としては、小学校、中学校一貫、9年間かけて子供を育てるという一つの建物の中での教育、これが今のところは望ましいのかなというふうに私個人は考えるわけですが、ぜひともこら辺のことを、まちの形だけと言いましたけれども、もちろん子供自体の教育、学力、体力、そういうものも同時に考えなきゃならないことなんですけれども、今現在、市としては、あるいは教育委員会としてはどのように考えているのか、どこまで話が進んでいるのか、今後の見通しも含めてお聞きしたいなというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

#### ○司会 ありがとうございます。

それでは、ただいま勇払小・中学校の今後の在り方についてということで、市のほうから回答

をお願いいたします。

◎**教育部次長** 皆様、こんばんは。教育部次長の斎藤と申します。どうぞよろしくをお願いいたします。

まずは、日頃より勇払小学校、勇払中学校の運営に多大なご支援、ご協力いただいておりますことを感謝いたします。ありがとうございます。

勇払小学校、中学校の在り方ということで、今、新1年生は九人、来年の入学生も八人、九人といったような状況が続きます。そういった小規模化が進む中、小規模化だけではなくて高齢化ということで、地域の皆様も高齢化が進んでいるというようなことで、将来にわたって子供たちのためにどういった学校づくりをしていけるのかということで、今、検証を始めた段階にあります。

コミュニティ・スクール、地域の学校運営協議会、ここで関わっている皆さんもいると思うんですけども、今初めてこのお話を聞く方もいるかと思うので、少しお話しさせていただいてよろしいですか。

我々としては、教育委員会として、小規模の学校だからといってすぐに統合ということで考えているわけではなくて、小規模校のメリットをどうやって生かしていくか、そういった支援をしながら地域の皆様と学校の在り方について考えていきたい。協議をしていくというのが基本的な考え方ですので、それを踏まえて、7月にはコミュニティ・スクール、協議会の委員さんと意見交換をさせていただきました。

また、その後、先ほどおっしゃった保護者のアンケートですが、少し回答率が低かったのですが、そこは参考にしていこうと考えておりますし、実際に教育長以下、教育委員さんと勇払小学校を先日、学校の視察もさせていただいて、子供たちの元気な姿を確認させていただいてますし、ただ、複式学級という5年生と6年生と一緒に授業をしていたり、そういった難しさも実際に感じたところでもあります。

今、皆様の意見、こういった形で小中一貫校、小学校と中学校を一緒にした義務教育学校といいますが、今そういったご意見もいただいて大変ありがたく思いますし、勇払の地区、歴史だったり、伝統ですとかを大切にしたいという思いは共通で持っているものと思いますので、この後、もう少し議論を尽くして、いろいろご意見をいただきながら方向性というのを、できれば今年度中に一定の方向性を定めたいというふうに今は考えているところです。

小規模校のきめ細かな子供たちへの対応というのができる一方で、集団の中で育つというところがデメリットになりますので、そこが地域、社会との関わりの中で、そういったデメリットを少なくしていくという、やっぱり小規模校を維持していくには、地域の皆様の協力というのは絶対に必要だと思っています。なので、そういったところも踏まえて、これからまた協力いただければと思いますので、よろしくをお願いいたします。以上です。

○**司会** よろしいでしょうか。

◆**市民** もうしゃべれないんですか。

○**司会** 大丈夫ですよ。

◆**市民** ありがとうございます。

今、私があえてしゃべったのは、もう一つ、この問題を地域全体の人方で考える。意識するという必要かなと思って、お話をしました。直接子供たち、あるいはその保護者、それから学校に関わっている者だけでなく、地域全体でこの問題について関心を持っていきたいというふうに思っております。そういう点では、今おっしゃってくださったことはまさにそのとおりだと思いますので、よろしくお願いいたします。

まちが小さくなり、人口が減って、したがって子供の数が減っているということが一番の問題なんですけれども、先ほど市長の言葉、それからDJの方の言葉にもありましたとおり、やはり勇払が苫小牧発祥の地、歴史のある土地でございますし、今、周辺にこれだけの企業が張りついている以上、勇払というまちは絶対なくならないと思っております。人口は減ったとしても。

なくならない以上は、私たち住民は少しでもぎやかさだとか、楽しさだとか、そういうものを創生し、維持していきたいというふうに考えて、日々、いろいろな政だとか行事を行ったり、話し合いをしているところなんですけれども、市としてもそこら辺は十分に考慮していただいて、勇払が住みやすいまち、それから少しでも人口が増えるような、そういうのを常に念頭に置いた施策を考えていただきたい。

例えば、交通機関のバスの運賃なんかも仕方ないとはいえ、どんどん上がり傾向の中でも、今、苫小牧がこの港を造って発展している陰に、この勇払の犠牲がどれほどあるかということ、古い話なんですけれども、改めて念頭に置いて勇払を大事に。

今、ラピダスが千歳に來まして、とんでもない人数の社員、需要があるようです。勇払、土地が安い。本当によその土地から見れば3分の1ぐらいの差で家を建てられる状態です。ぜひそこら辺をPRしながら、勇払の発展に心を砕いていただきたいというふうに思います。どうも失礼しました。

○司会 ありがとうございます。貴重な意見ということで、承りたいと思っております。

それでは、ほかにも何かいらっしゃいませんか。

はい、今、マイクをお持ちいたします。

◆市民 …と申します。

港まつりのお祭りの際、送迎バスが沼ノ端まで来ているんですが、勇払まで送迎のバスは来られることはできないのでしょうか。

それと同時に、お祭り終了後の送迎バスも、やはり沼ノ端まで送迎されるんですけども、要するにやっぱり遅かったりとかするので、その後の勇払まで帰ってくる交通手段がないということなので、そういったことをちょっと検討してもらいたいと思います。

○司会 ありがとうございます。

◎副市長 今のバスは市民おどり？送迎は、お祭りを見に行った後の。

◆市民 臨時バスです。

◎副市長 臨時バスですか。

◆市民 はい。

◎副市長 それじゃあ、花火も含めて、祭り会場に行って、帰ってくる時の臨時バスの話ですね。

◆市民 はい、そうです。

◎副市長 そうですか。ちょっと今、観光のほうは、担当のほう、来ていないんですけども、私のほうで、ちょっと勇払まで来るバスがどうなっているのか、その辺、来年度以降、何か改善ができるのかできないのかも含めて、お祭りの担当のほうには聞いて、できれば返事ができるのであれば連絡をするようにしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

◆市民 はい、ありがとうございます。

○司会 それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。

◆市民 じゃあ、いいですか。

○司会 はい。

◆市民 皆さん、こんばんは。格好を見て分かると思いますが、勇払の・・・といいます。

ごめんなさい、一人1個と聞いているんですけども、去年も言ったんですが、住民からのお困り事を集約しているという立場もあって、幾つか言わせてください。

一つ目が、去年、ここで言った鹿対策、勇払の町なかから厚真の発電所に向かう東部南通の草刈りをここでお願いして、去年すごく早く対応していただいて、その結果をまずお伝えしたくて、恐ろしく減りました。件数でいくと、僕が受けたものに限ると10分の1以下になっています。

なので、ぜひともこれは今年もやっていただきたいと。実質的な効果が物すごく見られたので、これはやっていただきたいということ、僕もいつまでここにいるか分からないので、継続してやっていただければ、住民の方に対してもとてもいい効果が出ていると思いますので、ひとつよろしく願いしたいというのが僕からの意見です。

あと、住民の方ですね、たまたま今日、犬猫のガイドラインが入っていたので、ひょっとしたら来ているのかもしれませんが、住民の方からの困り事で、鹿の次によく上がるのが、畑をやっている人たちが猫に困って、捨て猫ですとか、捨て猫じゃない、野良猫ですね、野良猫に対して非常に対応に苦労していると。

時代が変わったので猫、毒の餌、よく分からないんですけども、今もあるのかは分かりませんが、ああいうのを使うわけにもいなくて非常に困っているということで、ちょっと自治会にも一回相談したことあるんですけども、市のほうからお声かけをいただいて、桜猫活動みたいなものができるのであれば、そういった活動を地域の皆さんとやってみたいという気持ちが私としてはありまして、やはりお金がかかるので、ちょっと個人では難しいという結論に達しました。

市とタッグを組んで話を進めていければ、とてもいい活動ができるんじゃないかなと思っております。長くなってもあれなので、以上で、よろしく願いします。

○司会 ただいま意見をいただきました。1件目が鹿対策として、厚真の発電所までの道路の草刈りの効果はかなりあるということで、継続していただきたいということ。2点目が、畑をやられている方が、ちょっと野良猫に悩まされているということで、市のほうから回答をお願いいたします。

◎環境生活課副主幹 野生鳥獣のほうを担当しております高坂といいます。よろしく願いいたします。

昨年のみちかどミーティングでもこちらでご要望いただきまして、我々としても鹿対策という

のも、今、本当に全市的に鹿のほうは非常に増えていて、この勇払地区もそうなんですけど、やはり苫小牧の西部地区のほうでも鹿による被害を受けているという状況ではあります。

ただ、私どもも、やはりこれまでも苫小牧警察署さんのほうにもご協力いただいて、やはり特に沼ノ端地区から勇払地区に来る市道、それと今お話がありました苫東厚真火力発電所に向かう、この勇払地区からですね、その市道において交通事故が非常に多いという状況も鑑みまして、我々としても今年も草刈りの拡幅というのは継続して行っていきたいというふうに考えておりますので、そちらのほうは、今後、10月下旬から11月の頭になるかと思えますけれども、拡幅の草刈りはやっていきたいというふうに思っております。

あと、野良猫対策なんですけれども、我々のほうの部署で、まず例えば餌やりですとか、野良猫に対して餌づけをやっているような方がいらっしゃるとか、そういうことがあれば、まずは我々、市のほうで、直接やはり住民の方同士というのはなかなか難しいというのはあると思います。

ですので、我々の環境生活課のほうにご連絡をいただければ、まずは我々、その餌やりをやっている方の周辺の方々に、そういった餌づけをやらないでくださいというようなビラ配りをしながら、直接ご本人が特定できた場合には、その餌づけをされている方に市のほうが直接接触するだとか、そういったこともやりますので、まずは市のほうにそういったことをご相談とかがあれば、環境生活課のほうにご相談いただければと思います。

もちろん地域の方々とご一緒に対応させていただくということもやりますので、環境生活課のほうにご相談いただければというふうに思います。よろしく願いいたします。

○司会 それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。

はい、今、マイクをお持ちいたします。

◆市民 勇払の・・・と申します。

昨年のまちかどミーティング終了後に住宅課の方に、防災、特に津波とかそういう観点から、住宅の上階の鍵、これを各区長さん方に預けるとか、そういう対策ができないかということで相談しました。

そうすると、住宅課の方が善処しますというふうに言われたんですけど、その後の経過と申しますか、どのようになっているか、それを確認したいと思ってお願いします。

○司会 ありがとうございます。

市営住宅の上の階の鍵を防災の観点から預けることについて、市のほうから回答をお願いしますでしょうか。

◎住宅課長 昨年度、まちかどミーティング終了後の話しで私も記憶しています。うちの係の者から、恐らく翌日以降、ご連絡をさせていただきたいという多分やり取りはあったと思うんですね。

◆市民 私じゃなくて、区長さんをお願いしますと。

◎住宅課長 その後は、鍵渡しとかは、まだされていないということですかね。

◆市民 そうです。

◎住宅課長 すみません、大変失礼しました。話し合いが進められているというふうに私は報告を受けていたので、そこまで行っているものだと思っていましたので、ちょっと週明けて月曜日職場行っ

てから確認をさせていただきますので、改めて報告をさせていただきたいと思います。

○司会 それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。

はい、今、マイクをお持ちいたします。

◆市民 勇弘の・・・と申します。

また鹿の話に戻るんですけども、勇弘から沼ノ端に行くときの道路に鹿飛び出し注意という看板を作っていたんですが、とても小さいのと、あともう劣化して、ちょっとさびて文字も見えなくなっているんで、あの看板をもう少し大きくしていただかないと、車を走っていても、何書いてあるのかわからないまま通過しちゃうんですね。看板も少し大きく作り直していただけたらうれしいなと思います。

○司会 ありがとうございます。

今、道路沿いにある鹿注意の看板がもう少し大きくなるかということで、市のほうから回答をお願いします。

◎環境生活課副主幹 環境生活課です。看板の鹿注意という文字だけの看板ですかね、それとも絵が描いている。

◆市民 絵が描いてあるものです。

◎環境生活課副主幹 絵描いてあるやつですね。大変申し訳ないです。あれが我々のほう、環境生活課のほうで職員がちょっと手作りで作ったもので、大変申し訳ないです。

我々もちょっと町内会さんのほうからもご要望があって、我々も看板のほうは、今は鹿注意という縦の、ちょっと夜もライトがつくようなものをほかの部局の協力をいただきながら作ってまして、それを今設置はさせてもらっているんですけども、もしちょっとやはりここもというようなことがあれば、我々と看板のほう、別の部局と調整をさせていただいて、またすぐ設置できないかというのは、ちょっとまた後ほど、どこかというのは終わった後にお聞きしたいと思います。

○司会 それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。

◆市民 すみません。

○司会 はい。

◆市民 勇弘商工振興会の・・・です。

何から言おうかな、いろいろいっぱいあるんですけど、1個しか質問できないということで、苫小牧市のスポーツ推進との関わりになるかと思うんですけども、とまこまいマラソン、あと市とはちょっと関係ないんですけども、トライアスロン等々あります。

ちょっと地域の高齢化が進みまして、正直な話、主催者と地域の住民が置き去りになる形で開催されているというふうな感じでやっています。

なので、これから継続、勇弘でイベントをしていただけるのは本当にうれしい限りではございますけど、ちょっと継続するというのであれば、もう少し住民としっかりと話し合えるような行事のまとめとか、ちょっとご助力いただきたいなというところがありまして、それも全部総合的に関わるものになってくると思いますので、またちょっとその辺の音頭を取るようしっかりと

いただきたいなと思っています。

あと、PRになるんですけど、今月 21 日に避難訓練、合同でやらさせていただきますので、よろしくをお願いします。終わります。

○司会 ありがとうございます。

ただいま勇払地区で行われたとまこまいマラソンについてということで、市のほうから回答をお願いいたします。

◎総合政策部参与 スポーツの担当しております総合政策部の柴田と申します。よろしくお願いいたします。

とまこまいマラソンにつきましては、昨年からは勇払の中学校を活用させていただいて、苫東地域でハーフマラソン、今年からは 10 キロと 2 キロのハーフマラソンということで、全面的に勇払のほうにご協力をいただいてやらせていただいているという形になります。

2 年前、私もその当時は関わっていたんですけども、自治会さんのほうとしっかり調整をさせていただいて、ハーフマラソンの場所ということで設定させていただいたんですけども、今年があまり、もしかしたら調整していなかったのかなと思いますので、実施主体は苫小牧スポーツ協会というところで、ちょっと役所とは違うんですけども、ただ、役所のスポーツ課というところもしっかり関わってやっていますので、その辺、再度、私のほうからしっかり地域と話し合っ、これから進めるようにやりますので、よろしくお願いいたします。

◎市長 実行委員会のほうに入っているか、入っていないのか。

◎総合政策部参与 入っていないですね。

◎市長 そこから参画してもらえばいい。

◎総合政策部参与 そうですね、その辺も検討させていただきます。

◆市民 私もそうなんですけども、駐在所も交えてください。お願いします。

◎総合政策部参与 分かりました。

◆市民 スポーツ協会の人に来てくれるんですけども、結局はみんなで話をする機会が全くないので。

◆市民 知らないほうが多かったです。

◎総合政策部参与 そうですか。

◆市民 どうしても関わり合いになるタイミングがないので、交えてください。

◎総合政策部参与 分かりました。ちょっと私もその辺を認識していなかったもので、しっかり伝えて、来年は調整させていただきます。

○司会 それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。はい。

◆市民 自治会の・・・です。よろしくお願いいたします。

事前の要望事項の市の回答ということなんですけども、3 番目、歩道延長と街路灯の設置ということなんですけど、これは実は勇払の史跡公園から勇払マリーナの前の交差点までの間というのは避難道路に指定されているんですが、歩道がない、街路灯もないので、早期の設置をお願いしたいというのが自治会の要望です。

市の回答は、相変わらずなんですけども、津波避難からの限られた避難ルートの一つであるため、

防災上の観点から早期に歩道の整備の実現に向け、街路灯の設置と併せて北海道や室蘭建設管理部に対し引き続き要望すると、非常に前向きな、ただ具体的ではあんまりないという感じがあるんですけども、これは別に今日言って明日にできるものじゃないので、それはもう当然、我々も理解しています。

ただ、津波なんていうのは、正直いつ来るか分からない。それに対してここは避難ルートになっているんです。にもかかわらず、これ、避難している人、もし津波来て発生したときに、避難ルートだと分からないトラックだとか、車が、ここの歩道もないところに人が歩いていることになるんですよ。

要するにこういう危険なところに対しての何か、避難ルートですよと、そういう標示ぐらいは早くつけたらどうなのかなと。歩道まですぐ造るというのは当然無理だと思うので、それはいいんですけども、避難ルートと市が言っているんだから、そこはやっぱり市としても何らかの標示をして、安全対策を、運転者側も避難する人にとっても分かるようにしたらいいんじゃないかなというのが私の意見で、無理かなと思うんですけども、答えをください。

○司会 ありがとうございます。

ただいま要望番号の3番、歩道延長と街路灯の設置に関連してということで、市のほうから回答をお願いいたします。

◎道路建設課長 お晩でございます。道路を担当しております道路建設課の成田と申します。よろしくお願いたします。

今、道道、北海道の道道のところには歩道がない状態が続いているということでありまして、私どもは、皆さんご存じと思うんですけども、国道は国が管理しておりまして、道道は北海道が管理しておりまして、私ども市役所のほうで市道を管理している立場にあります。

今、道道の歩道がないところがあるということで、昨年、数年前からいろいろとご要望をいただいておりますが、ちょっと代わり映えのしないお答えとなってしまって大変申し訳ないと感じているんですけども、その管理主体は北海道さんということで、やはりあれだけの大きな橋、橋梁も含んでいる中で歩道をつけるというのはなかなか莫大な工事費もかかるということで、北海道さんもちょっとすぐに、はい、いいよ、やるよということはなかなか簡単にはできないということなんですけども、今おっしゃっていただいたとおり、位置づけが避難するような道ということで、その辺も非常に重要な観点なので、私のほうからも北海道さんにその辺をよく伝えておりまして、北海道としても何とかしたいよということで気持ちは本当に持っていただいております、今、何とかそれが実現できるか、国だとかの補助がないかといろんなメニューを探っていただいている状態になっていまして、なかなか、ただ、いかんせんすぐに、これとってすぐに大きなお金というのが、補助というか、システムもないらしいので、ちょっと模索中ということで、なかなか前向きな回答になってはいないんですけども、やはりこれは引き続き粘り強く市としても北海道さんのほうに、こういった避難する道だということの位置づけも踏まえて、何とか実現させてほしいということで、粘り強く要望のほう続けてまいりたいと思っておりますので、今おっしゃっていただいた避難路であると示すことにしても、北海道の道路に係る許可も要りますので、それら





して、まずそれがベースになっています。

それで、今、会長からお話ありましたように、その後、どういうふうになっているのかがなかなか分かりにくいというか、そこまでが皆さんによく伝わると、さらにご協力いただけるんじゃないかという話で、大変いいお話をいただいたと思っています。

ちょっと私も記憶が定かではありませんが、市でもそういったごみ関係のパンフレット、何種類か作っていたかなという気がします。その中で、そういうことも書いていたような気はしますが、よりそれが効率的にというか、皆さんのところに目に見える形で伝わるようないるんなやり方というのは、ちょっと工夫していきたいと思います。

今年、来年と、今、ゼロごみ大作戦を展開しているところですので、いただいたご意見は本当に貴重なご意見だと思いますので、実現したいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○司会 それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。

はい。

◆市民 すみません、2回目になりますけど、商工振興会の・・・です。

すみません、こちらのちょっと質問の中でというか、結構あるんですが、津波の災害の避難について、また戻ってしまうんですが、一応先ほども問題になったかと思うんですけども、苫小牧市の対応でやっぱりかなり縦割りというか、遅くなってしまうと。

というのも、ちょうどペットのパンフレットがあったと思うんですけど、避難するとき、ペットと一緒に逃げてはいけないというふうに言われたと思うんですけども、避難のガイドマップでは、ちょっと財産として持ち出すことは可能です。ただし避難所で一緒にいられるか分からないというところで、やっぱり苫小牧市、地域として逃げるんですけど、道として別に学校に逃げるわけですからその対応がまずないんですよ。

だから、避難をするとき、ペットが逃げられないから家にとどまる。ほかの地域でも教えがあるように、そういったところから、もう一回ちょっと危機管理室だけではなくて、苫小牧市全体として、防災というものをもう少し広い目で、生活を維持して復旧するという意味でちょっと考えていただければと思います。

以上です。

○司会 ありがとうございます。

ただいま避難するときのペットの扱いについてということでしたが、市のほうから回答をお願いいたします。

◎危機管理室主幹 危機管理室の川崎と申します。よろしくお願いいたします。

ペットに関することなんですけれども、基本的に、今、指定避難所となっている学校に関しましては、確かに人の避難というものが主になっているんですけれども、今、ちょっと福祉避難所というものを再検討をしまして、その中でペットの避難に関しても、今併せてちょっと考えているところがございますので、ちょっと今、すぐ答えが出ないんですけれども、よろしくお願いいたします。

○司会 それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。

◆市民 なかったらいいですか。

○司会 はい。

◆市民 2回目、すみません、勇払の・・・です。

質問とか要望とかではなくて、提言というか、企業にも私はパトロールでお伺いすることがあるんですけども、勇払、弁天のほうは特に鹿が物すごく多いというのは皆さん、ご存じだと思うんですが、その鹿肉を加工する方が、こんなに鹿がたくさんいて、港湾施設があつて、苫小牧埠頭さんが造った冷凍施設もあつたら、ここはもう宝の山にしか見えないと。囲いわなというんですかね、追い込みする囲いわなみたいなものを作って、その解体する施設を用意すれば、ここは本当にいいジビエのまちになるというお話を、その本州から来た方が言っていたのを私は聞きました。

鉄砲が打てないという事情と、あと大きな、大規模なものがちょっとなかなか難しいというのは聞いてはいるんですけども、そこら辺を何とかしてやりくりできれば、すごくいい話になるんだろうなと思って、ちょっと聞いたことを思い出しましたので、提言という形でお話しさせていただきます。

○司会 ありがとうございます。

ただいま鹿のジビエとしての活用についてということでしたが、お願いいたします。

◎環境生活課副主幹 環境生活課、高坂です。

まさに我々も、そのジビエとしての活用というのは非常に有効かなと、やっぱり鹿を駆除していくには必要かなと思っていて、ついてはいろいろと解体処理施設を検討している事業者さんですか、そういったところと実は今、いろんなところからお話を聞いて、実際に駆除をやられている事業者さんのほうで、そういった活用方法はないかとか、いろんなところでやはり苫小牧の苫東地域の広大なところもありますので、そういったところですね、おっしゃっていた囲いワナですとかなんですけど、そういったもので通年を通して捕獲ができるような、そういった活用策というものがないかということで、今、実際にちょっと我々としても、事業所さんとかとお話を伺いながら検討を進めているんですけど、やはりその解体をするには、ジビエとして活用するには、まず捕獲してから、やはり時間との勝負っていうところがあり、本当にすぐにジビエとして使うには時間が、非常に下処理が重要になってきますので、そういったことも含めて、事業者さんと今、そういったお話を進めているところでございますので、今後ちょっとそういった可能性については探ってまいりたいというふうに思っておりますので、よろしくお願ひします。

◆市民 ありがとうございます。

それで、ごめんなさい、鹿は皮も使えるじゃないですか。その皮の有効利用というのも、ここで私、レザークラフトを習っていることもあつて、皮を使うという発想もぜひ一緒に入れていただければちょっと思いました。以上でございます。

◎環境生活課副主幹 昨年度から実は鹿の捕獲事業というのを、農業被害の捕獲というのはこれまでもやってきていたんですけども、我々、生活環境被害ということで、実は昨年度から、我々、捕

獲事業を実施しまして、156頭捕獲を行っております。

この捕獲した鹿というのは、実は全量をペットフードとして活用してるんですけども、その解体、捕獲した事業者さんのほうで解体しまして、角ですとか骨ですとか、また皮ですね、そういったものも有効活用して利用してるということで、今、今後また捕獲事業をする際には、そういったやはり命ですので、ただ解体処理してしまうのではなくて、有効的な活用も含めて、今後ともそういった捕獲事業というのをやっていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

◆市民 ありがとうございます。

○司会 それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。

◆市民 度々すみません、商工振興会、・・・です。

意見ばかりじゃなくて、これからの勇払についてになるんですけども、勇払のまちというか、周りにある企業さん、出光さんからCCS、それから日本製紙さんはバイオ発電ですね、そういったエネルギー分野、再利用分野がすごく集中しております。

これからも出てくるのが、恐らく太陽光パネル再処理、再利用という形になるんですけど、ここは本当に北海道で一番再処理とかそういったポテンシャルが含まれています。そういったところで企業さんと地域というものをもう一回結び直すという意味でも、ちょっと自治会さんと協力してというか、一緒にやっている勇払の花火大会、今年でちょっと育てて7,000人の動員が図れましたので、そういった意味合いでもお力添えをお願いしたいということと、あと、鹿の再利用の話もありましたけれども、駅前だけじゃなくて、勇払もしっかりとそういった、住民たちの力によるまちの再復興というような形で動いてまいりたいと思いますので、そういったもののご意見とか、苫小牧市としてのいろいろ方向性とか意見交換ができればなと思いますので、どうかよろしくお願いいたします。

◎副市長 副市長の木村でございます。

最初に・・・さんからも、この勇払のこれからという部分についてお話がございました。やはり日本製紙、本体が撤退して、それからのこの勇払地区がどうなるのかという不安というのは皆さんも当然お持ちかと思えます。そこに向けて、私どもも勇払地区の地域振興、どうあるべきかというところも、担当部署を含めて、庁内、いろんな部署を交えて、町内会の皆さんとも何回も協議をさせていただいております。

そういった意味では、これからも皆さんとこの勇払地区をいかにして発展させていけるのかどうかというところを、地域の皆さんのご意見をしっかりお聞きしながら、私ども、できることはしっかりやっていきますし、できない部分かもしれないですけども、どういったらそこが可能性があるのかということ、きちっと検討しながらやっていきたいと思えますし、今、・・・さんからいただいたご意見も、私ども、企業なりにつなげられるところはつなげられると思えますし、一緒に何か考えてできることはやっていきたいと思えますので、いろいろと市に対してもご意見、ご要望、そういった提案としていただければと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

○司会 それでは、そろそろお時間が近づいてまいりましたが、意見交換終了させていただいてもよろしいでしょうか。それでは、これで意見交換を終了させていただきます。

最後に、本日のまちかどミーティングの終了に当たり、岩倉市長よりご挨拶させていただきます。

◎市長 大変ご熱心にご意見、ご質問、全部で12項目にわたりましていただきまして本当にありがとうございました。市としてすぐできることは対応しますし、時間がかかることもあります。

駐在さんから鹿の話があって、今年の例大祭のときに非常に効果があったという話を聞かせていただいて、私もうれしい思いをしながら、こうした場でいただいた意見、あるいはご質問等については、最優先で取り組めることは取り組むという姿勢でいきたいと思いますので、駐在さん、警察を辞めて来ないか。

あと、・・・さんからもありました、今、毎年のように生まれてくる赤ちゃんが100人ずつ減っていきまして、昨年、初めて1年間で生まれてくる赤ちゃんが1,000人を切ってしまいました。

同時に、以前は至るところに産婦人科がありましたが、もう今分娩ができる病院は王子と市立、2か所しかなくなっています。以前、分娩をやっていた産婦人科も婦人科に切り替えたりして、これは苫小牧だけの現象ではありませんけれども、非常に心配なところなんです。

それで、これをどうやってこれから、人口減というのは単に人口が減るというだけじゃなくて、経済都市として雇用の問題に直結した話になっていますので、これから大多数ができ、3年前から我々、チャレンジしていますデータセンターが今年中には多分政府のほうで場所を決めると思います。うちのほうは苫東にずっとチャレンジをしてきました。あと、海底ケーブルの話もあります。

こうしたことが決まると、北海道自体もイメージが変わっていくのではないかと同時に、背景に雇用の問題も含めて、我々、チャレンジをしていかなければならない。地域の宝である子供をどうやって育てていくのかということは非常に最優先課題でもありますので、しっかりそのことを踏まえて、勇払の小学校、中学校をこれからどうしていくのか。

これ、日本の法律では、僕、教育行政の執行権がないんですね。予算権と、それから人事権しかないんですが、七、八年前に全国でいろいろ問題があって、総合教育会議というのができて、市長が座長になって五人の教育委員さんとそういう会議ができたんですね。半歩、私も教育行政に口出しができるような状況にもなっておりますので、教育委員会の皆さんとも議論をしたいなというふうに思っています。

それやこれや課題も多いわけですが、何とか今の子供たち、そしてこれから生まれてくる新しい市民が生まれた苫小牧で食っていけるようなまちをつくっていききたいというふうに考えておりますので、引き続き、もし何かありましたら、声を市役所のほうに届けていただければというふうに、最後をお願いを申し上げましてご挨拶に代えさせていただきます。

本日はありがとうございました。

○司会 以上をもちまして、まちかどミーティングを閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。